

## 1958年 Super Cub C100 スーパーカブ C100

1956年12月、社長の本田宗一郎と専務の藤澤武夫は、Hondaの経営基盤を強固にするための新しい製品づくりを目的に欧州各国を視察。欧州では、モペッドと呼ばれる小型で扱いやすい二輪車が普及していました。各国の二輪車事情を把握した両人は、欧州のモペッドとは一線を画す全く新しい乗り物の必要性を認識しました。

そうして誕生したのが「スーパーカブ C100」です。エンジンは低コストで軽量の2ストロークではなく、あえて高級なメカニズムの4ストロークを採用。4ストロークエンジンは、低燃費で耐久性に優れる利点があります。

また、開発の指揮を執った本田宗一郎は、そばの出前で片手でも運転できるようにすることを開発メンバーに指示。左手でクラッチを操作する必要の無い自動遠心クラッチを新たに開発しました。

車体は後ろに荷物を積んでもまたぎやすい形状とし、取り回しやすさと足つき性のために、日本に無かった17インチタイヤをスーパーカブ用に開発してもらうなど、実用性とモダンなデザインを両立した画期的な製品を創り出しました。

### 主要諸元

|              |                     |
|--------------|---------------------|
| 全長×全幅×全高(mm) | 1,780×575×945       |
| エンジン形式       | 空冷 4ストローク OHV 単気筒   |
| 排気量(cc)      | 49                  |
| 最高出力(PS/rpm) | 4.5/9,500           |
| 乾燥重量(kg)     | 55                  |
| 最小回転半径(m)    | 1.7                 |
| 乗車定員(名)      | 1                   |
| 変速機型式        | 前進 3 段常時噛合式         |
| クラッチ型式       | 湿式多板自動遠心式           |
| タイヤサイズ       | 前:2.25-17 後:2.25-17 |
| 燃料消費率(km/L)  | 90 (30km/h 定地燃費値)   |
| フレーム型式       | バックボーンプレス式          |
| 価格(円)        | 55,000              |